

綾瀬市と厚木基地

神奈川県綾瀬市



はじめに

綾瀬市は、神奈川県ほぼ中央に位置する地理的好条件下にあることから、首都圏のベッドタウンとして発展し、今では8万2千人余の市民が暮らしており、平成20年11月1日には、市制施行30周年を迎えます。

しかしながら、行政面積の18%弱を占める厚木基地の存在は、まちづくりのための各種事業の阻害要因となっているばかりか、航空機による騒音や墜落の不安など市民生活に様々な影響を与えております。

なかでも、米空母艦載機による騒音問題は、長年にわたり市民に耐え難い騒音被害を与えており、特に夜間連続離着陸訓練（NLP）は、その多くが硫黄島訓練施設で実施されてはいるものの、昨年5月には硫黄島の天候不良を理由に米空母艦載機のジェット機によるNLPが厚木基地で行われたことから、市民から多くの抗議や苦情が寄せられました。また、NLPのみならず、NLP直前の集中的訓練をはじめ通常訓練とされる空母入港期間中の飛行訓練による騒音被害も、依然として大きな市民の負担となっております。

こうした騒音問題の解決を図るためにも在日米軍再編の最終合意にも示された厚木基地の負担軽減策が確実かつ早期に実現されるよう強く望むものであり、今後も国や米側に強い姿勢で臨み、市民の皆様をはじめ市議会、市基地対策協議会、神奈川県及び基地周辺市との連携を密に一層の努力をしてまいります。

本書は基地の変遷、基地問題の現状や市の取り組み等をまとめたものであり、基地を抱える本市の実情をご理解いただければ幸いです。

最後に刊行に際し、ご指導、ご協力を賜りました関係各位に心から感謝申し上げます。

平成20年3月

綾瀬市長 笠 間 城治郎

綾瀬市民憲章

(昭和53年11月1日制定)

私たちは、相模野の恵まれた緑をたいせつにし、自然と文化の調和した都市「綾瀬」の発展をねがいここに市民憲章を定めます。

- 1 みんなで助け合い、明るい“まち”にしましょう。
- 1 教育をすすめ、文化の高い“まち”にしましょう。
- 1 産業をのばし、豊かな“まち”にしましょう。
- 1 環境をととのえ、きれいな“まち”にしましょう。
- 1 きまりを守り、住みよい“まち”にしましょう。

綾瀬市核兵器廃絶平和都市宣言

(昭和59年12月19日制定)

核兵器を廃絶し、世界恒久平和を実現することは、世界唯一の核被爆国日本の全国民共通の願いである。

しかしながら、地球上では今なお核兵器の増強が進められており、世界の平和と人類の生存に深刻な脅威を与えている。

綾瀬市は、国是である非核三原則の順守と、すべての核兵器の廃絶を希求し、恒久的な世界平和を願い、核兵器廃絶平和都市となることを宣言する。

凡 例

- 1 本書は、原則として平成19年12月31日又は平成18年度までの資料等を集約している。
- 2 調査の時期については、「年度」は会計年度（4月～翌年3月）を、「年」は暦年（1月～12月）を示す。
- 3 統計中の符号の用法は、次のとおりとした。
「－」又は「0」 …………… 計数なし
「…」 …………… 計数不詳
- 4 平成19年1月9日に、防衛庁から防衛省へ移行したことにより、本文中時点表記がある場合は、「防衛庁」、「防衛施設庁」及び「横浜防衛施設局」で、それ以外は「防衛省」及び、「南関東防衛局」で表記している。
- 5 資料の出所は、各表の下部に掲げ、必要に応じ（注）を用いて統計表の内容を説明した。

目 次

I 綾瀬市の概要

- 1 位置と沿革 1
- 2 人口及び世帯数の推移 3

II 厚木基地の概要

- 1 沿 革 4
- 2 概 要 8

3 米海軍厚木航空施設

- (1) 任 務 11
- (2) 米海軍第7艦隊と空母キティホーク 11
- (3) 横須賀母港化の経緯 11
- (4) 基地従業員 17

4 海上自衛隊厚木航空基地

- (1) 任 務 18
- (2) 移駐の経緯 18
- (3) 対潜哨戒機P-3Cの配備 19
- (4) ジェット機乗り入れ 20
- (5) 次期固定翼哨戒機XP-1 20

5 在日米軍再編

- (1) 再編計画の概要 23
- (2) 実施に関する概要 23

III 基地と市民生活

1 騒音問題

- (1) 経 緯 26
- (2) 夜間連続離着陸訓練 (NLP) 28
- (3) 地上音 30
- (4) 騒音苦情 31

2 代替訓練施設

- (1) 経 緯 31
- (2) NLP施設移転誘致問題 34

(3) 硫黄島の概要	34
3 騒音実態調査	
(1) 騒音	36
(2) 航空機騒音と環境基準	36
(3) 騒音測定	37
(4) 測定結果	40
4 厚木飛行場周辺の航空機騒音軽減対策	41
5 NHK放送受信料の減免	43
6 テレビジョン共同受信施設の設置	45
7 厚木基地騒音訴訟	46
8 騒音問題に関する運動等	
(1) 市民署名運動	52
(2) 騒音解消要請運動	52
(3) 訪米	53
(4) NLP実施4基地関係市長意見交換会	54
IV 事件・事故	
1 航空機事故	55
2 施設等の事故	57
3 その他の事件・事故	57
4 事故後における国等の措置	
(1) 横田及び厚木飛行場等の周辺における安全措置	58
(2) 厚木飛行場周辺の航空交通管制の再検討	58
5 航空事故等連絡協議会の発足	59
V 返還跡地と移転跡地等国有地	
1 一部返還と跡地利用	
(1) 返還経緯	61
(2) 跡地利用	63
2 移転跡地等国有地	65
VI 市の基地対策	
1 市の基地対策	
(1) 基地の整理・縮小・返還	67

(2) 騒音対策	67
(3) 安全対策	67
(4) 財源確保と助成措置の拡大	68
2 要請活動等	68
3 綾瀬市基地対策協議会	
(1) 性格と目的	68
(2) 活 動	68
(3) 組 織	68
Ⅶ 国の基地周辺対策	
1 周辺対策の経緯	69
2 周辺整備法の概要	69
3 障害防止工事の助成（第3条）	74
4 住宅の防音工事の助成（第4条）	
(1) 指定（告示）の経緯	76
(2) 住宅防音工事の種別	77
(3) 工法の種別	77
(4) 機能復旧工事	77
5 移転の補償等（第5条）	78
6 民生安定施設の助成（第8条）	81
7 特定防衛施設周辺整備調整交付金（第9条）	85
8 損失の補償（第13条）	91
Ⅷ 基地交付金と調整交付金	
1 基地交付金	92
2 調整交付金	92

資 料 編

1	要望事項等年譜	93
2	日本国とアメリカ合衆国との間の相互協力及び安全保障条約	98
3	日本国とアメリカ合衆国との間の相互協力及び安全保障条約 第6条に基づく施設及び区域並びに日本国における合衆国軍 隊の地位に関する協定（抄）	101
4	米海軍組織図	107
5	米海軍厚木航空施設組織図	108
6	防衛省・自衛隊の組織図	109
7	海上自衛隊の編成図	110
8	海上自衛隊厚木航空基地組織図	111
9	日米合同委員会組織図	112
10	県内提供施設一覧表	113

I 綾瀬市の概要

1 位置と沿革

綾瀬市は、神奈川県の中核地域南部に位置し、東は大和市、西、北は海老名市、南は藤沢市にそれぞれ接し、東西4.2km、南北7.6kmで、地形は比較的平坦であり、行政面積は、22.28km²である。横浜まで約20km、都心まで約40kmと地理的条件がよく、また、市内からは、西に大山・丹沢連峰をおさめ、遠く富士の秀峰を仰ぐことのできる、恵まれた自然環境の相模野台地に位置している。

この地で人々が生活をはじめたのは今から約3万年前からで、吉岡の綾瀬浄水場には南関東最古級の石器が出土している。

また、目久尻川、蓼川、比留川、引地川沿いの台地縁辺部には旧石器時代から奈良・平安時代にいたる遺跡が数多くあり、綾瀬がとても住みやすい風土の地であったことがうかがえる。

平安時代の末期には、東郷平八郎元帥の祖である渋谷庄司重国とその一族が綾瀬市域に進出し支配した。早川城跡は、渋谷一族によって築かれた山城と伝えられ、平成20年2月に神奈川県指定史跡に指定されている。

戦乱の時代が一端終焉した江戸時代になると、各地で新田開発が盛んに行われた。綾瀬では大規模な新田開発として蓼川新田が挙げられる。蓼川周辺は、もともと萱などを採集する入会地であったが、寛文13年（1673）に新田開発により蓼川新田村が成立し、のちに蓼川村となった。

明治維新を経て、明治4年（1871）神奈川県下に属し、明治22年市制町村制施行と同時に、深谷、本蓼川、蓼川、寺尾、小園、早川、吉岡、上土棚の八カ村が合併して綾瀬村が誕生した。

昭和に入ると時代は急速に変化し、昭和16年には相模野海軍航空隊が創設され、人口も一挙にふくれあがり、昭和20年4月1日に町制を施行した。8月には太平洋戦争が終わりを告げ、新しい日本の幕開けとなった年でもある。戦後の復興期を経て、日本経済の発展に伴い、住宅開発や工業地域化が急速に進行し、昭和45年の国勢調査では2万5千人であった人口も、昭和50年の同調査では、倍の5万人と急増、地域社会の様相も一変した。

昭和53年11月1日市制を施行し、現在では人口8万2千人を超える県央の中堅都市として発展し続け、平成13年にスタートした新時代あやせプラン21、「緑と文化が薫るふれあいのまちあやせ」をめざしたまちづくりは着実な歩みを見せている。

平成17年3月には市の商業の中心核となる大型ショッピングセンター「タウンヒルズ」も完成し、これに併せて周辺も商業圏として整備され、新たな賑わいを見せている。また、大規模住宅地の開発が進み、新住民の増加とともに着実に市の中心市街地が形成されつつある。